

# 令和4年度農作物有害動植物発生予察情報 発生予報第7号（10月）

令和4年9月28日  
山形県病害虫防除所

## [概要]

園芸作物：りんご、日本なしの黒星病の翌年の伝染源密度の低減を図るため、収穫終了後に薬剤防除を行ってください。また、落葉した発病葉は集めて適切に処分する等、耕種的対策を組み合わせる総合的に防除を実施してください。

もものせん孔細菌病は、翌年の伝染源密度の低減を図るため、落葉期までに無機銅剤を1～2回散布してください。

**ハスモンヨトウの発生量は多い予想です。圃場をよく見回り早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を徹底してください。**

## 予報内容一覧

作物名	病害虫名	発生量
りんご	黒星病	—
もも	せん孔細菌病	—
日本なし	黒星病	—
果樹共通害虫	コスカシバ（もも・おうとう）	平年並
秋冬ねぎ	葉枯病	平年並
	<b>ハスモンヨトウ</b>	<b>多い</b>
	シロイチモジヨトウ	—
	オオタバコガ	—

山形県病害虫防除所	本所	TEL 023-644-4241	FAX 023-644-4746
	庄内支所	TEL 0235-78-3115	FAX 0235-64-2382
山形県病害虫防除所トップページ	<a href="https://agrin.jp/theme/byogai-chubojosho/index.html">https://agrin.jp/theme/byogai-chubojosho/index.html</a>		
農作物有害動植物発生予察情報	<a href="https://agrin.jp/theme/safe_products/yosatsu/index.html">https://agrin.jp/theme/safe_products/yosatsu/index.html</a>		

1. 農薬の使用に当たっては、登録内容（農薬使用基準）を遵守するとともに、隣接地や周辺作物へ飛散しないよう十分留意する。また、使用後は防除日誌の記帳に努める。
2. 合成ピレスロイド剤等を使用する場合は、市町村農作物有害動植物防除協議会等で定めた地区に限って使用し、蚕・魚類に対する被害を防止する。
3. 農薬の空容器、空袋等の処理は、廃棄物処理業者に処理を委託する等により適切に行う。

予報根拠中の記号      (+)：発生量を多くする要因      (-)：発生量を少なくする要因

## I 園芸作物

### 1. りんご

#### (1) 黒星病

9月27日現在の発生量は平年並であるが、新梢先端葉に新たな病斑が発生し、発病葉が増加している園が見られる。翌年の伝染源密度の低減を図るため、以下の対策を徹底する。

ア. 収穫が終了した品種から薬剤防除を行う。なお、収穫終了後に防除が実施できない園では、10月中旬頃に薬剤防除を行う。

イ. 落葉した発病葉は翌年の一次伝染源となるため、収穫終了後から翌春の展葉期までに落葉を収集し適切に処分する等、耕種的対策を行う。

### 2. もも

#### (1) せん孔細菌病

#### <9月13日付け発生速報第8号発表>

9月27日現在の発生量は平年並であるが、発病程度の高い園が散見される。翌年の伝染源密度の低減を図るため、以下の対策を徹底する。

ア. 落葉期までに無機銅剤を1～2回散布する。なお、早期に落葉すると、落葉部位からの感染が多くなるため、台風の通過前に薬剤散布を行う。

イ. 薬剤散布に当たっては、枝先まで薬液が十分にかかるようていねいに実施する。

### 3. 日本なし

#### (1) 黒星病

9月27日現在の発生量はやや多い。翌年の伝染源となるりん片への感染を防止するため、以下の対策を徹底する。

ア. 収穫直後から落葉期まで1～2回薬剤防除を行う。なお、発生が多い園では必ず2回薬剤防除を行う。

イ. 薬剤散布に当たっては、薬液が樹全体にかかるようていねいに散布する。また、スピードスプレーヤにより防除する場合は、散布速度や散布経路に注意し、散布ムラを防ぐ。

ウ. 落葉した発病葉は翌年の伝染源となるため、集めて適切に処分し、園内の伝染源密度の低減に努める。

#### 4. 果樹共通害虫

病虫害名	対象作物名	予報内容
		発生量
(1) コスカシバ	もも・おうとう	平年並

##### 1) 予報の根拠

9月27日現在の発生量は平年並である。

##### 2) 防除上注意すべき事項

ア. 細かな虫糞の混じったヤニが出ている枝幹部食入痕の周辺を、木槌等で軽くたたいて樹皮下の幼虫を圧殺する。

イ. 若齢幼虫は樹皮下の浅い部分に食入するため、落葉後直ちに枝幹部に薬液が十分にかかるように薬剤散布を行う。なお、落葉前にも使用できる薬剤を散布する場合は、葉に薬液がかからないよう注意する。

ウ. 枝幹の樹皮が裂けている場合や樹勢が低下している樹は、特に被害を受けやすいので防除を徹底する。

エ. 若木や幼木は、こぶ状に盛り上がった接木部が被害を受けやすいので、この部位にも薬液が十分にかかるようていねいに散布する。

#### 5. 秋冬ねぎ

病虫害名	予報内容
	発生量
(1) 葉枯病	平年並

##### 1) 予報の根拠

ア. 9月27日現在の発生量はやや少ない。(－)

イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。(＋)

##### 2) 防除上注意すべき事項

ア. 降雨が続くと中心葉に黄色斑紋病斑が発生するので、雨の合間を見て防除を行う。なお、薬液が株全体に十分付着するようていねいに散布する。

イ. 残さや被害株は翌年の伝染源となるため、圃場外に搬出して適切に処分する。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(2) ハスモンヨトウ	多 い

< 9月21日付け発生速報第9号発表 >

1) 予報の根拠

- ア. 9月後半の巡回調査の結果、ハスモンヨトウの平均被害株率は2.0%（平年（ヨトウムシ類）：0.9%）と高い。（+）
- イ. 9月1半旬から9月5半旬までのフェロモントラップにおける誘殺数は、地区予察圃場（鶴岡市）で多く、農業総合研究センター（山形市）でやや多い。（+）
- ウ. 向こう1か月の気温は、高いと予報されている。（+）

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 9月5半旬の飛来数が多く、今後、新たに被害が発生する恐れがあるため、圃場をよく見回り、早期発見に努める。
- イ. 卵塊や、ふ化直後の幼虫の集団が見られる葉は、取り除き適切に処分する。
- ウ. 幼虫の齢期が進むにつれ防除効果が低下するため、卵塊確認時や若齢幼虫期に薬剤防除を行う。なお、薬剤防除を行う場合は、薬液が株全体に十分かかるようにいねいに散布する。
- エ. 本種は、畑作物、果樹、野菜、花き等、多くの作物を加害するため、周辺作物を含めよく観察する。
- オ. 今後も台風や前線の通過に伴い多飛来することがあるため、発生動向に注意する。

(3) シロイチモジヨトウ

< 8月23日付け発生速報第7号発表 >

9月27日現在の発生量は多い。今後、台風や前線の通過に伴い多飛来することがあるので、圃場をよく見回り早期発見に努める。なお、薬剤防除を行う場合は、卵塊確認時や被害初期（葉の先端が透けた時）に散布する。

(4) オオタバコガ

9月27日現在の発生量はやや少ない。今後、台風や前線の通過に伴い多飛来することがあるので、圃場をよく見回り早期発見に努める。なお、本種は野菜、花き等の多くの作物を加害するため、周辺作物を含めよく観察する。

[発生予察情報で使用される時期、量の表現の基準]

1. 時期

平 年 並	平年値（過去10か年の平均）を中心として前後2日以内
やや早い	平年値より3～5日早い
ややおそい	平年値より3～5日おそい
早 い	平年値より6日以上早い
お そ い	平年値より6日以上おそい

2. 量（発生量、発生面積及び被害量等）

過去10年間の値を、発生が多い順に下図のように並べ、本年の値との比較により求めます。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
←多い→	← やや多い →		← 平 年 並 →				← やや少ない →		←少ない→

東北地方 1か月予報（09/24～10/23）		
2022年09月22日14時30分 仙台管区气象台 発表		
特に注意を要する事項	期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう1か月 09/24～10/23	天候	天気は数日の周期で変わるでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率70%です。
1週目 09/24～09/30	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 10/01～10/07	気温	2週目は、高い確率70%です。
3～4週目 10/08～10/21	気温	3～4週目は、高い確率50%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）			
気温	東北地方	向こう1か月 09/24～10/23	
		1週目 09/24～09/30	
		2週目 10/01～10/07	
		3～4週目 10/08～10/21	
降水量	東北地方	向こう1か月 09/24～10/23	
日照時間	東北地方	向こう1か月 09/24～10/23	

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)